

令和6年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立 黒崎中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

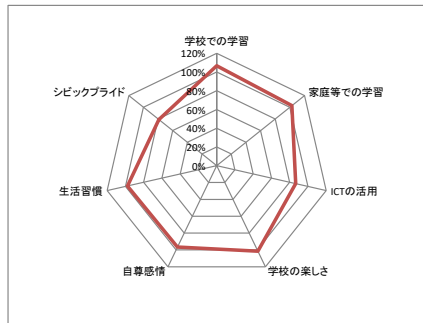
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	内容では「知識及び理解」の「(2)情報の扱い方に関する事項」や、「思考力、判断力、表現力等」の「B書くこと」はよくできているが、「知識及び理解」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」については課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりする問題。情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使用する問題。	
	努力が必要な問題	既習の漢字を文の中で正しく使用する問題、文の中で主語と述語との関係を捉える問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比較し、「A 数と計算」「B 図形」は正答率が上回っているが、「D データの活用」については、やや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	直方体の見取り図について理解し、かく問題。角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を記述する問題。除数が小数である場合の除法の計算をする問題。	
	努力が必要な問題	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題。折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

・「学校での学習」では、児童の90%以上が「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。」「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる。」「総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」と回答している。

・「自尊感情」では、児童の95%以上が「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答している。

・「ICTの活用」では、「学校の授業以外に、普段から勉強のためにパソコンやタブレットなどのICT機器を活用している。」と回答した児童の割合が、全国平均よりもやや低い傾向が見られた。今後は、個人での学習場面や、英語の学習の場面等でICTを主体的に活用できるように、場の設定の工夫や意識付けを図っていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語では言葉の意味や使い方等、算数では計算やグラフの読み取り等の基礎的事項の習得を図りつつ、対話による問題解決的な学習やICTを効果的に活用した発展的な学習を工夫することで、児童の主体的な態度及び思考力、判断力、表現力を一層高めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の定着を図るため、学習状況に応じて宿題の内容を工夫する。早寝早起きやうがい手洗いの励行等を進んで実行できるよう、保健指導等の充実を図るとともに、懇談会や各種通信の発行等により家庭との連携を一層進めていく。